■部品化技術を適用したアクセスシステムアーキテクチャ(FASA)

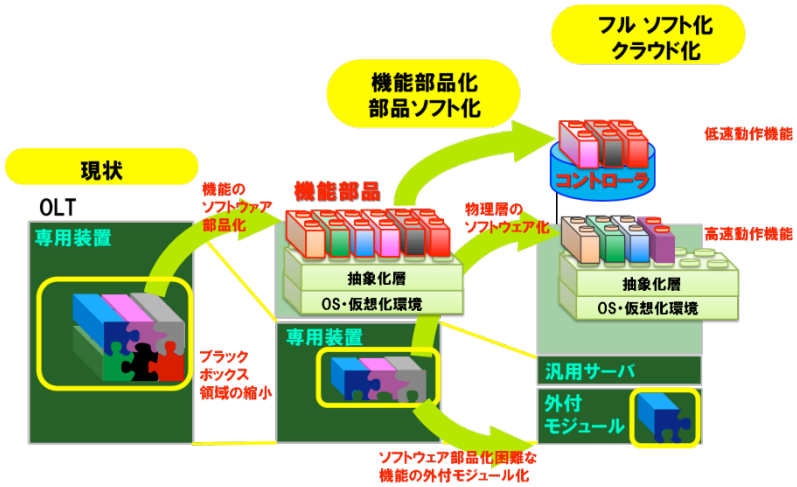
2016 年（平成 28 年）

将来の社会インフラを支えるために、アクセスネットワークに対する帯域・遅延・信頼性などの多様な要求に対応し、迅速にサービス提供可能なアクセスシステムアーキテクチャ(FASA : Flexible Access System Architecture)の実現に取り組んでいます。現在までに FASA の要件をまとめ、白書を発行しました(※)。白書を基に、海外キャリア・内外ベンダと協力して国際標準化を含むアクセスネットワーク装置の共通仕様化を推進しています。

※FASA ホワイトペーパー：http://www.ansl.ntt.co.jp/j/FASA/index.html

(1) 研究背景

光コラボレーションの進展に伴い、多様な要求に応え、新たなサービスの提供を可能とするアクセスネットワークが求められています。一方で、従来のアクセスネットワーク装置はサービス毎に専用設計されていたため、新たなサービスの提供は、装置入替も含め大掛かりなものとなっていました。



FASA 研究開発のポイント

(2) FASA 概要

FASA は、以下を実現するための新たなアクセスシステムアーキテクチャ、及びそのコンセプトです。

① 部品化技術(機能のソフトウェア部品化と、ソフトウェア部品化が困難な機能（伝送機能など）の外付モジュール化)をアクセスシステムアーキテクチャに適用

② 部品の組合せや入替により、同一ハードウェアで多様なサービス要求／伝送方式に対応

③ オープンな共通 API により、部品再利用を可能にし、新規開発における期間の短縮とコストの削減を実現

このサイトから発信される記事・写真・プログラム等情報の無断転載を禁じます。著作権はＮＴＴアクセスサービスシステム研究所に帰属します。
Copyright©NTT Access Network service systems Laboratories. No reproduction or republication without written permission.